

今年の松葉屋は『山と森と木と人々の暮らし』をテーマに、いろいろな方向をさぐってみたい。

ものをつくることは、いろんな意味で『命を使わせてもらう』こと。

(素材だって、エネルギーだって)

『ほんもの、ほんとうのものづくり』をするために、気づいて、伝えて、体験してもらいたいことがあります。



黒姫山のふもと、野尻という自然に囲まれたところで暮らす『たなこころ』の松浦さん。生命とは何かを常に考え、前向きに自然と人のつながりを実践しています。もともとは東京出身で、なぜ野尻という地に根を張って暮らしているのか、そんな疑問からお話がはじまりました。

生命いのちって何だろう——
山と森と樹、そして草や花の力をかりて
自然と人とのつながること。



たなこころ 松浦さん





自然に寄り添うことが出来る野尻

善五郎■野尻という地で生きてゆくと決めた理由は？

松浦さん■もともとは、私が3歳ぐらいの時に両親が野尻に家を建てたんです。普段は東京で狭い公団住宅に住みながら、休みの期間は野尻に生活を移すみたいな感じで夏・冬は必ず長期滞在していました。当時は、お友達が家族旅行行ったり話を聞くと「うらやましかったけど、今思えば、こんなすてきなところで過ごしていた自分は一種の贅沢でありがたかったなと思います。こっちに来たら、普通の生活があるんですよ。午前中は、宿題をやって、午後には、田んぼに放たれるみたいな(笑)。



それからずっと野尻とは縁がありました。来るたびにいつも黒姫山と妙高山のどかんと大きく目の前に広がる景色が迎えてくれて、「帰ってきたな〜」みたいな(笑)。

善五郎■すばらしい場所との出会いがあったんですね。

松浦さん■はい、自然とともに暮らせる幸せを感じています。鳥が毎日毛虫をとるために道路に下りてくるのを観察したり、初雪の日、降ったら一度消えて、その後本格的に雪のにおいがして冬になったりとか、屋根にドングリが落ち始める音を聞いて、秋を感じたり、子ども達が季節の移り変わりを身をもって感じられることが、今の時代、貴重なことだと実感しています。

植物のチカラで心を開き、ケアをする

善五郎■それでは活動についてお聞きします。たなこころさんのやっていらつしやることを教えてくださいませんか？

松浦さん■名前は「たなこころ」って言わんですが、「手のひら」のことを「掌・たなごころ」って言いますよ。濁点をとって「たなこころ」。手のひらから伝わることを大切にアロマオイルを使って全身のトリートメントをさせて頂いています。

善五郎■アロマとの出会いを教えてください。

松浦さん■阪神淡路大震災の時に6年位支援活動をする中で、必要な時により近くに寄り添うことができればなあと思っていたのです。

アロマと出会った時、言葉だけではなくアロマケアはそっと静かに何か伝えるものがあり、人により近く寄り添うことができると思っただけです。

いろんな意味で大変な時代だけど、希望を持って生きていくためにはまず自分が元気でないといけないですよ。アロマがすべてだとは思っていないんですけど、それを助けてくれる一つになり得るものだと思います。私は、たまにたまそんなアロマに出会って知ることができたので、今度はそれを皆さんに少しでもお繋ぎすることができたら良いなと思っています。



山と森と木と人々のくらし



子どものこと、みんなのこと

善五郎 ■自然の中に住む子ども達に願うことや期待はありますか？

松浦さん ■人って生きる力はもともと備わっていると思っています。それが、希望でもありませんね。自然の中にとそんなことを感じることがあります。子どもの方が、かえってすごいなと思うことも。それは、希望として持ち続けてほしいけど、今はそれを邪魔するものが沢山あります。これは、私も教えてもらったことなんですけど、子育てで一番何が大事かって言うと、「邪魔をしないこと」。例えばうちはテレビはつないでなくて、ゲームの機器もないんです。DVDは観たりして、テレビのすべてを否定する訳ではありませんが(時々私が観たいものもあったりして悔しい思いをしたりすることもありますが)。子ども達に対して親ができることの一つは、本来人間がもっているはずの「生きる力」「育つ力」を邪魔しないで大事

にしておくことかな、と思ったりします。

善五郎 ■自然に本来の力を引き出して伸ばすというのも親の役目ですね。たなこころさんが使用しているアロマオイルも「本来の力を伸ばす」を重視しているのですが、実は松葉屋でも植物オイルを使っているんです。よく使うのがドイツ製のリボス。本来は国内で自分達で製材して、乾燥させるのが一番良いんですけど、すべては難しくて…。選ぶ事はできるので、接着剤はヨウ素系は法律上はよくてもシックハウスとかの原因になり得る可能性があるので使わないなど、安全を意識しています。

勝手なイメージですが、今後、植物の持つ力で松葉屋のテーブルを使って触っていたら元気がでたりリラックスできたりする何かがないかと思っただけ。たなこころさんにアドバイスしていただいて、一緒にアロマを作りたいと思っただけです(笑)。

松浦さん ■良いですね。たとえば集中力をアップさせるブレンドがあったり、リラックスできるものもあるので使い方としておもしろいですね。

アロマって日常生活の中で結構役立つ使い方があって。例えば、子どものケアとか、風邪の予防だったり。そう考えると家具は生活の一部で、肌に直接触れるので効果的かもしれないですね。選択の一つとして、全員ではなくプラスアルファを楽しみたいという方に、そういう用意がありますよっていうのは良いですね。

知ってもらおうことが自分の使命

松浦さん ■すり傷や打撲の時など、私が日常的にアロマを使っていると「それなに？」って聞かれることあるので、年に2、3回オープンルームというイベントをやっています。いろんな香りに出会っていただいたり、季節ごとのアロマクラフトを作ったり、症状別のアロマ活用方法のご相談を受けたり、アロマについて知っていただく機会をもつことも私の役割の一つだと思っています。

善五郎 ■夏場の使い方は？

松浦さん ■日焼け止めや、虫よけスプレー、日焼け後のケアなどで使えるアロマを提案していますね。時々、図書館のイベントなどで呼ばれて、アロマが必要な方につながればと思っています。

特に最近多いのは、病院に入院している方とか、終末医療の方とか、病に伏せている方のためのオイル作りの依頼があります。それは、その病気の方だけでなく、周りで見守るご家族の方も大変な思いでいる方も多く、そんな周りの方々へもアロマの力が優しく働きかけてくれています。

これからは身体にも精神的にも両方からアプローチ出来るものだと思います。ともお伝えしていきたいですね。専門的な部分を伝えるっていうよりも、多くの人に家族同士が、タッチングするようになったりとか、親子間でも夫婦間でも友達間でも、顔の見える関係のところで、お役にたきたいと思っています。

取材協力

アロマトリートメントルーム たなこころ
〒381-1303 長野県上水内郡信濃町野尻1197-471
Tel 026-258-3117(女性専用) 携帯080-1437-6065 営業時間/AM10:00~
※JR黒姫駅より車で10分/上信越自動車道、信濃町ICより約5分





川沿いから駅にいたる商店街周辺は津波による甚大な被害を受けた石巻旧市街。地元の方々が今後、誇りをもって自立復興するきっかけをつくり、復興後も長期に渡り存続できる「地域のものづくりのための場」をつくろうと、建築やプロダクトにかかわるデザイナーをはじめとする関係者が集まり、結成された「石巻工房」を見学してきました。



最小限の材料と工具と持って制約の中で作り出されたベンチの D.I.Y の精神に大変感銘を受けました。

石巻 工房

復興後も長期に渡り存続できる「地域のものづくりのための場」

「手づくり」にデザインの

付加価値を与えた石巻工房ブランド



『石巻工房ブランド』の中から善五郎が選んだベンチを展示します。

D.I.Y(Do it Yourself)の本質とはイギリスにおいてドイツ軍の厳しい空襲を受けたロンドン。戦後の破壊された街を自分達の手で『復興』するという国民運動のスローガンでした。



夏の手編みくつした。オーガニックコットンの糸なので、はいているだけでももちよくて手(足?)ばなせなくなります。(足?)ばなせなくなります。手編みするのは十糸さん。ひと目ひと目、1足編むのになんと!6時間かかります。ネットに入れて普通に洗濯、4年はしっかりはけるし、ゆるんだら十糸さんが修繕してくれませ。(1足4410円)



オーガニックコットンの
きもちいい手編みくつした

お気づきいただけましたか?

この松葉屋通信を開封したときのほかに甘くて高貴な香りを。

これは今回いろいろお話聞かせていただいた「たなごころ」さんに作っていただいた黒文字(クロモジ)スプレーの香り。リラックス作用を高める効果があるのだとか。

取材の際に、黒姫にたくさん自生する黒文字の木の精油とそれを抽出する時に出るアロマウォーターなどで希釈したものです。

森からの贈物を楽しんでいただけたらうれしいです。



黒文字
クロモジ
クスノキ科クロモジ属



松葉屋通信 vol.24

発行所 松葉屋家具店+くらし道具学研究所

〒380-0841
長野市大門町45
TEL 026-232-2346
FAX 026-237-4558
since1833@matubaya-kagu.com
(水曜定休)

発行日 2013年7月210日

© 松葉屋家具店+くらし道具学研究所
Copyright ©2010 Matubayakaguten Co., Ltd.
All rights reserved.